

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

東京都 北区立稲付中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備体操（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等）を設け、  
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年6月12日 (月)
- 場 所 : 北区立稲付中学校 / 東京都北区西が丘1-12-14
- ク ラ ス : 2年1組 (29名)
- オリンピアン : 田島 寧子 先生 (水泳・競泳) 【出場オリンピック/シドニー大会】
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・田島先生から自己紹介をした後、今日は「明るく元気に取り組む」「素直に正直に取り組む」「アイデアは全部出す」「内緒話などローカルトークはしない」「他人の意見に批判や否定をしない」という5つの約束事を守ってほしい伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。90秒間で跳んだ回数を競い、引っかけでも続きから数えることのできる加算方式とした。  
 ・各回終了後、跳べた回数を発表。3回目前に作戦タイムを設け各チームで話し合ったところ、全チームが3回目に最高記録を更新することができた。

4. まとめ



・主運動の8の字跳びでは、1人ではできないことも皆で考えて話し合い、協力し合うことで達成できたと伝える。  
 ・座学の時間では、オリンピックにおいて大切なこと、オリンピックとは何かということについて話すと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・田島先生より、授業の目的と運動の時間に話した5つの約束事を改めてスライドを用いて確認。その後、自身の経験を交えながらオリンピックバリューについて説明し、グループワークへ移る。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・3つのオリンピックバリューに当てはまる自分の経験について考えてみようと発問。  
 ・1人で行ったスポーツイベントで、同じく1人で来ていた子に話しかけてみたら、すぐに意気投合して仲良くなることができた（フレンドシップ）という意見が挙がった。

4. まとめ



・オリンピックとの関わり方について、「出場する」「観戦する」「支える」という3つの観点から説明し、3年後の東京2020大会には何らかの形で是非参加してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年6月12日 (月)
- 場 所 : 北区立稲付中学校 / 東京都北区西が丘1-12-14
- ク ラ ス : 2年3組 (30名) / 2年2組 (29名)
- オリンピック : 平野 早矢香 先生 (卓球) 【出場オリンピック/北京大会、ロンドン大会】
- 授業のながれ: 運動の時間 (3、5 時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認

2. 準備体操



・平野先生から自己紹介の後、オリンピックバリューについて簡単に説明。運動の時間では「ベストを尽くす」「友情を深める」「尊敬の心を持つ」の3つを意識して取り組んでほしいと話し、準備体操に移る。

3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間で跳んだ回数を競い、引っ掛かっても続きから数えることのできる加算方式とした。  
 ・各回終了後、跳べた回数を発表。その後作戦タイムを設け、記録を更新するためにはどうすれば良いかを各チームで話し合う。

4. まとめ



・平野先生から、最後まで諦めずにベストを尽くすことが大切であると伝える。最後に3つのオリンピックバリューの意味を確認し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・自己紹介をした後、ロンドン大会の映像を見せながら、平野先生とオリンピックとの関わりについて話す。その後、自身の経験を基にオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



・クラスをより良くするために実践したいオリンピックバリューについて考えてみようとする。  
 ・クラス目標を提案し皆でそれに向かって頑張る、アイデアを出す（エクセレンス）、互いに励まし合う、笑顔が心がる（フレンドシップ）、互いに認め合う、相手を大切に思い気遣う（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・東京2020大会は皆も興味を持って関わってほしい。昨日の自分より成長することを意識して毎日を通していけば、いつか大きく成長した自分に出会える。日々前進するという言葉を忘れず、充実した中学校生活を送ってほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 証明書贈呈

